



# 自衛隊栃木地方協力本部

## 家族会が3年ぶりの部隊研修で松島基地を訪問



自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 倉田 陸尉）は1月27日、大田原市自衛隊家族会の部隊研修を支援した。

本研修はコロナ禍でしばらく中断していたが、今回は参加者約20名が航空自衛隊松島基地を訪問し、「3年ぶりの研修でとても楽しみにしていた」との声が聞かれた。

松島基地ではまずブルーインパルスが発進する場面を見学した。ブルーインパルスは昨年の栃木国体開会式で展示飛行しており、「テレビで見た機体が目の前で見られて感動する」と、間近でみる迫力や美しさに釘付けになったようだった。

続いて、ブルーインパルスの格納庫では展示されている機体を至近距離で見ることができ、発進する際のタイミングなどについて松島基地の広報担当者から説明を受けた。また、屋外で展示されている2代目ブルーインパルス（T-12）には階段が設置さ

れており、参加者はいろんな角度から機体を観察していた。その他、松島基地には格納庫の入口など、至る所に東日本大震災の津波の高さを示すラインが記されており、「ここまで来ていたのか」と地震の恐ろしさを再確認する場面もあった。

参加者は本研修を通じ、入隊した家族が勤務している環境等について改めて理解を深めた様子で「（部隊研修を）引き続きやってほしい」との感想が聞かれた。

栃木地本は「今後も部隊研修等を支援し、自衛隊への理解促進に努めていく」としている。



## 宇都宮市で海自横須賀音楽隊が観客を魅了



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶 陸尉）は2月11日、宇都宮市文化会館で開催された「海上自衛隊横須賀音楽隊スプリングコンサート in 宇都宮」を支援した。これは栃木県防衛協会が主催する年に一度の自衛隊音楽隊による演奏会であるが、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年は約3年ぶりの開催となった。会場には約1,700名が詰めかけ、開場時間を繰り上げるほどの賑わいを見せた。

開演にあたり、栃木県防衛協会会長 青木勲氏が挨拶し「県民の皆様と自衛隊をつなぐ架け橋として、本日の演奏会が自衛隊員とのふれあいの場になることを心より祈っております」とお祝いの言葉を述べた。演奏は2部構成で行われ、第1部では軍楽隊の歴史や吹奏楽の発展などの紹介とともに、オペラや組曲が披露された。大迫力の演奏や中川 3海曹の歌声に観客は聴き入っていた。第2部ではデイズニードレーやスーパーマリオブラ

ザースなど、幅広い世代に愛される曲目が演奏され、キヤラクターの効果音まで再現する演出に、会場は大いに盛り上がった。

ラテンナンバーの演奏では「手拍子で参加してください」という司会者の言葉で観客が手でリズムを刻み始め、会場全体が一体となって曲を奏でているような場面も見られた。

終演後も拍手が鳴り止まず、「生で聴けて本当に良かった」「歌姫の声がよく響いて素晴らしいかった」「参加型の演奏会といった感じでも楽しかった」「海上自衛隊の『海』を想わせる選曲がいくつかあって良かった」等の感想が聞かれた。

栃木地本は「今後も自衛隊音楽隊の演奏を通じ、地域の皆様に自衛隊を身近に感じてもらうよう活動していく」としている。

